

ミニフォーラム

学校生活支援員制度を

もっと充実させるために！



丸岡いつこ
(横浜市議)

6月に、横浜市教育委員会は学校生活支援員事業について、予算不足を理由に利用を制限するとして各学校あてに通知しました。8月、横浜市内全小・中学校を対象にアンケート調査を実施、11月18日にはネット青葉とNPO法人 Archとの共催で、調査の報告と意見交換のためのミニフォーラムが開かれました。12月議会では、今年度の利用制限が撤回されることになりましたが、利用制限の撤回だけでは、支援を必要とする子どもに十分な支援員を配置

できるとは限りません。今後は、利用しやすい制度の周知徹底と支援員の確保や適切な研修の実施を求めて提案を続けます。



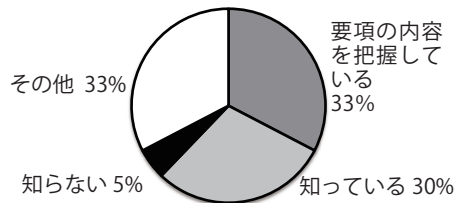
学校生活支援員事業アンケート回収状況

	学校数	返信あり	意見あり
小学校	345	146	40
中学校	148	47	17

学校生活支援員制度の利用制限について

	困る	影響なし
学校数	30	3

学校生活支援員事業を知っていますか？



ミニフォーラム報告レポート

「学ぶ権利を守りたい」

今、学校に必要なこと

学校への調査では、夏休み中ということもあり、管理職不在の学校が多く、電話口に出た教員の大半は制度そのものを知らず、「この忙しいときに！」と、話の途中で受話器をとガチャンと置かれたこともありました。

参加者からは、「人手が足りないから付き添わなければならない」「校長が話し合いに応じてくれない」「お金が無いという理由で制度が利用できなかった」といった厳しい状況が報告されました。また、一方で「個別級の親の会を立ち上げました！」「PTAの会長を引き受けています！」といった力強い報告もありました。

今、学校に必要なのは、ゆるやかなヨコの繋がりを。この人がいるとホッとすると助かる、といった存在です。点と点を結ぶように皆さんを繋ぐお手伝いをするのが私たちの役目のひとつなのだと思います。

NPO 法人 Arch/ 吉田香哉子

*NPO 法人 Arch：地域の学校へ通い、楽しく学校生活を送りながら、一人ひとりの可能性を伸ばしていくお手伝いをするために、子どもたちをサポートする学校生活支援員を育成し、コーディネートする事業を実施しています。



ネット・青葉は、横浜市内で活動するNPO、ワーカーズコレクティブの皆さんと、介護や子育て支援、学校生活支援や移動サービスの提供など、現場の課題をもとに横浜市への政策提案に取り組んでいます。これまでの提案活動から、子どもへの一時預かりの補助制度、小規模な家庭的保育、児童保育の補助制度、障害児の通学支援、ヘルパー2級の資格取得の補助制度の創設・拡充、産前産後支援ヘルパー事業の復活など制度の改善が進んできました。

東日本大震災では、大手企業が配食サービスを中止する中、市民事業サービスの見守り・安否確認など大きな力となりました。10月27日、横浜市との円卓会議に参加し、2012年度の予算への提案を提出しました。

(霜山恵子)

2012年度予算に向けて
「福祉現場からの提案」
住み慣れた地域で
安心して暮らすために

